

CDP2026 コーポレート SME 版質問書スコアリングイント ロダクション

CDP コーポレート SME 版質問書スコアリング基準

バージョン

バージョン番号	公開日/改訂日	改訂内容の概要
1.0	リリース日：2026年4月30日	CDP2026 コーポレート SME 版質問書スコアリングイントロダクションの公開
1.1	リリース日：2026年5月1日	SME 情報開示、SME 認識、SME マネジメント、SME リーダーシップの説明の更新

もくじ

Version	2
Introduction	5
Principles of scoring.....	5
Scoring of responses.....	5
Other scoring resources.....	5
Scoring of the SME Questionnaire	6
Full and SME corporate questionnaires.....	6
SME questionnaire structure.....	6
Approach to Scoring.....	8
Scoring levels.....	8
SME Disclosure	8
SME Awareness.....	8
SME Management.....	8
SME Leadership	8
Final score allocation.....	8
Calculation of scores per scoring level	8
Calculation of a final score	9
Failure to respond and late responders	10
Understanding the scoring methodology	11
Methodology structure	11
Scoring approaches	11
Proportional scoring.....	12
Best row scoring.....	13
Integrated scoring approaches	14
Scoring routes	15
Cross-checking.....	16
Disclaimer Surrounding Scores.....	17
Feedback and Support	17

Annex I – Score Privacy Policy	18
Environmental issues in the SME questionnaire.....	18
Scoring implications of accepting or declining requests to disclose	18
Annex II – Conflict of Interest Policy	19
Policy on conflicts of interest relating to the scoring of responses	19
Organization-wide controls.....	19
Scoring methodology development.....	20
Scoring process.....	20

イントロダクション

スコアリング原則

スコアリングは、CDPのミッションと密接に関連しています。CDPは、市場のステークホルダーと連携しながら、企業が環境や天然資源への影響を開示し、悪影響を軽減するための行動を取るよう促すことで、その実現を目指しています。また、その行動を取ることのビジネス上の意義を強調しています。スコアリングは企業に対してCDPへの開示を通じて環境へのインパクトを測定・管理することを奨励する役割を果たします。

CDPは、質問書内の各質問がどのようにスコアリングされるかについて定めたスコアリング基準に基づいて回答組織を評価し、回答組織の環境スチュワードシップへの進捗状況を評価して、スコアリングします。

スコアリング基準は、回答内容の詳述の度合いや包括性、環境課題への認識の度合いを評価します。CDPは透明性を高めるために、スコアリング基準をオンライン上で公開しています。

回答のスコアリング

CDPは、回答組織からCDPに提供されたデータに基づいてスコアリングします。CDPは、個々の組織の回答に記載された情報を検証することはありません。スコアリング基準に特別な記載がない限り、CDPへの回答以外の情報を、スコアリングの際に考慮することはありません。また、組織のウェブサイトやレポートなどの外部情報をスコアリングの際に考慮することはありません。CDPへの回答に記載されたWebリンクや添付ファイルも、スコアリング基準で特に要求されない限り、スコアリングの対象にはなりません。

回答組織は、CDPへの回答に含まれる情報は、回答提出時における回答の公開・非公開の選択にかかわらず、回答要請組織と共有されることをご理解ください。そのため、回答組織には、組織の現在の状況をできるだけ反映した、完全かつ正確な情報を提供いただくようお願いいたします。

2026年には、英語、日本語、中国語、スペイン語、ポルトガル語で提出された回答がスコアリングの対象となります。これらの言語で提出されていない回答は、スコアリング対象となりませんのでご留意ください。

その他スコアリング関連資料

本書は、CDP2026 コーポレート SME 版スコアリング基準、CDP2026 コーポレート SME 版質問書、および CDP2026 コーポレート SME 版報告ガイダンスと併せてご活用ください。報告ガイダンスでは、質問書に回答する際に対象となる要素について説明しています。スコアリング基準は、回答組織がこのガイダンスに沿って回答データを提供することを前提に機能するため、報告ガイダンスに記載された指示に従ってデータを報告することが重要です。これらの関連資料は、CDP ウェブサイトの「情報開示の方法」ページから、[CDP ポータル](#)へのリンクを使ってご覧いただけます。CDP ポータルでは、これらの資料を PDF 形式でダウンロードすることも可能です。

他にも、CDP ウェブサイトの[情報開示の方法](#)ページから、次のような資料をご覧いただけます。

- カテゴリーマッピング (2026 年)
- カテゴリーウェイト (2026 年)
- CDP コーポレート SME 版質問書スコアリング基準の変更点 (2026 年)

コーポレート SME 版質問書のスコアリング

コーポレート完全版質問書と SME 版質問書

CDP は、中小企業 (SME) と大企業では、報告能力や適用される報告要件が異なる場合があることを認識しています。そのため、CDP は、コーポレート完全版質問書と SME 版質問書という 2 種類の企業向け質問書を用意しています。

コーポレート SME 版質問書は中小企業のニーズに合わせてカスタマイズされた質問書で、質問が少なく、簡素化されています。コーポレート SME 版質問書に回答できるのは、CDP の中小企業適格基準を満たす組織のみです。2026 年のコーポレート SME 版質問書では、気候変動に重点を置き、フォレストと水セキュリティに関する集約された質問を組み込み、これらの環境課題に関する情報開示の取り組みを加速させます。コーポレート SME 版質問書は主に気候変動に焦点を当てていますが、CDP は情報開示者とデータ利用者に対し、環境リスクと機会を密接に関連した課題として評価・管理することを推奨しています。2026 年コーポレート SME 版質問書では、気候変動への回答のみが採点され、フォレストと水セキュリティはスコアリング対象外となります。

本書は、コーポレート SME 版質問書に対するスコアリングの概要のみを提供しています。完全版質問書のスコアリングに関する情報については、CDP の「コーポレート完全版質問書のスコアリングイントロダクション」をご参照ください。

コーポレート SME 版質問書の構成

コーポレート SME 版質問書には 10 個のモジュール（モジュール 14～23）があります。モジュール 14 から 19、および 23 は環境課題が集約されており、これらのモジュールの質問は複数の環境課題分野にわたる内容をカバーしています。モジュール 20 は、気候変動の環境課題分野に特化しています。

気候変動に関する質問は、すべての回答組織に提示されます。フォレストおよび水セキュリティに関する補足的な質問は、回答組織がこれらの環境課題についての報告を要請されている場合、または自主的に報告を選択した場合にのみ提示されます。2026 年は、これらの質問はスコアリング対象外となります。

コーポレート完全版質問書とは異なり、SME 版質問書に回答する組織には、セクター固有の質問は提示されません。

スコアリングのアプローチ

スコアレベル

回答組織は、環境ステewardシップに向けた進捗を示す以下の4つのレベルで評価が行われ、どの段階にあるのかが示されます。4つのレベルとは、SME 情報開示、SME 認識、SME マネジメント、SME リーダーシップです。2026年は、SME 質問書はすべてのレベルで評価されます。

SME 情報開示

SME 情報開示スコアは、組織の報告の完全性を測定します。各質問に割り当てられるポイント数は、求められるデータの量と、そのデータ利用者にとっての相対的な重要性に基づいて決まります。

SME 認識

SME 認識スコアは、組織の事業が環境課題とどのように関連するかについての評価の包括性を測定します。SME 認識スコアは、組織が初期のスクリーニングや評価を超えて環境課題に対処するための行動を取ったことを示すものではありません。

SME マネジメント

SME マネジメントポイントは、組織が環境課題に与えるインパクトを認識した上で、良好な環境管理に関連する行動の根拠を提供する回答に対して付与されます。一方、これはこれらの企業がその分野のリーダーとして際立った行動を取っているかどうかを示すものではありません。

SME リーダーシップ

リーダーシップステータスを獲得するためには、中小企業は利用する戦略と実施する行動において高度な慣行を示さなければなりません。これらの行動は、組織の規模に適したもので、データの正確性と環境ステewardシップへの強いコミットメントを反映しています。

最終スコアの配分

スコアレベル毎のスコアの算出方法

回答組織が特定の環境課題分野に対するスコアリング基準に従いスコアリングされると、スコアレベルごとに最終的なパーセンテージスコアが計算されます。SME 情報開示スコアレベルと SME 認識スコアレベルでは、付与されたポイント数を獲得可能なポイント数で割った単純な割合が計算されます。SME マネジメントスコアレベルおよび SME リーダーシップスコアレベルでは、加重された割合が計算されます。

コーポレート SME 版質問書内のすべてのスコアリング対象の質問は、1つのスコアリングカテゴリーに割り当てられます。各カテゴリーのウェイト（重み付け）は、全体のスコアにおける相対的な重要性を反映しています。

ウェイトは、スコアリングカテゴリーごとの SME マネジメントスコアおよび SME リーダーシップスコアを次のように計算することによって適用されます：得点/配点* 100。これらの割合ベースのスコアは、カテゴリーのウェイトに対して達成されたポイントの割合を計算することによって、レベルごとのカテゴリースコアに変換されます：カテゴリーのウェイト (%) / 100 * SME マネジメント/SME リーダーシップスコア (%)。各レベルのカテゴリースコアは合計され、その後、各レベルの最終的な総合スコアが計算されます。

SME のカテゴリーおよびウェイトに関する詳細については、CDP2026 の SME 版カテゴリーとウェイトの文書をご参照ください。

最終スコアの算出方法

回答組織には、スコアリングされた各環境課題分野について、SME A から SME D までの最終スコアが割り当てられます。2026 年には新たに、SME リーダーシップレベルが採点され、SME A スコアを獲得できるようになります。

質問書のすべての領域において完全な情報開示と一貫した進捗を奨励するため、回答組織は下位のスコアレベルで最低要件を満たした場合のみ、次のスコアレベルの評価を受けることができます。これは閾値システムによって達成され、あるレベルで最低スコアを獲得すると、その上のスコアレベルに移行することができます。スコアの閾値が達成されない場合、組織の最終スコアは下のレベルに留まります。このアプローチにより、一部の分野にだけ特化して優れていて他の分野のパフォーマンスが不十分であるという状態を抑制することができます。

CDP はスコアレベル間の移行に必要な閾値を暫定的に設定し、スコアリング期間中に、スコアレベル間の回答の分布が回答の現在の進捗レベルを代表するよう見直します。CDP は、スコアリリース前のいかなる時点においても、これらの閾値を調整する権利を有します。

レベル	気候変動	スコアバンド
SME 情報開示	1~80%	SME D
SME 認識	1~90%	SME C
SME マネジメント	1~90%	SME B
SME リーダーシッ プ	1~100%	SME A

表 1 - 各環境課題分野に対する CDP スコアレベルに適用される暫定的なスコアリング閾値

無回答と回答遅延

CDP 質問書への回答を要請されたすべての組織が回答するわけではありません。データの開示を求められても開示しない組織には、「回答無し」のステータスが割り当てられ、CDP による評価に必要な十分な情報を提供しなかったことが示されます。スコアリングの対象となる回答期限締切が過ぎた後に CDP に回答を提出した組織、またはその他スコアリングの対象外である組織は、スコアは付与されず「スコアリング対象外」のステータスが割り当てられます。

スコアリング基準の理解

基準の構造

スコアリング基準は、各質問について、4つのスコアレベルのそれぞれに関する具体的な採点基準と、質問に対するポイント配分の詳細を示します。採点基準は、スコアレベル内でポイントを得るために満たす必要条件についての詳細を示します。ポイント配分表には、各スコアレベルについて獲得可能な最大ポイント数が示されています。

ポイント配分表には、レベルごとに個別の [得点 (numerator)] 列と [配点 (denominator)] 列があります。得点列は、各スコアレベルでの最高ポイント数のうち、獲得可能なポイント数を示します。得点と配点は通常同じですが、得点が配点よりも小さいことがあり、その場合、回答組織がそのレベルについて規定されるすべての基準を満たしていても、配点すべてを獲得することはできません。場合によっては、得点と配点の列に獲得可能なポイントの変動があり、基準内で適用されるスコアリングルートに応じて獲得できるポイント数が異なります。

所定の質問に対して提供された情報のみが、各質問のスコアリングに用いられます。他の質問に対して記入された回答についての言及は、スコアリング基準に明記されている場合を除き、スコアリングプロセスの一部として考慮されません。

無回答の場合、当該の質問または一連の質問に与えられる最大スコアのうち、得られるスコアは「0」になります。特定の重要なデータポイントの場合、回答のない質問には、その質問について獲得可能な最高ポイントを超える配点のうち、得られるスコアは「0」になります。これらの重要なデータポイントは、スコアリング基準の特定のルート（「非開示ルート」と表示）で強調されています。

スコアリングのアプローチ

CDP コーポレート SME 版質問書には複数のルートが含まれているため、すべての回答組織に同じ質問が表示されるわけではありません。質問ルートの選択により、表示される質問数が変わることがあり、それに従ってスコアの配点も変わります。多くの場合、「はい」を選択した組織の方が、「いいえ」を選択した組織よりも、より大きい配点になります。このように異なる質問のルートがスコアに影響しないよう、スコアは正規化されてパーセントの値で表示されます。具体的には、得点として取得したポイント数を、選択された質問ルートに基づき取得可能な総ポイント数で割って計算した結果に基づき、最終スコアが付与されます。自組織に関連しないために質問数が少ない場合でも、そのことがスコアリングにおいて不利になることはありません。

ポイントを付与する方法は質問ごとに異なり、回答組織は回答を準備する際にスコアリング基準を詳しく確認して、得点の割り当て方法を理解することをお勧めします。

一部の質問では、与えられた各データポイントにつき、その質問で得点可能な最高ポイントを上限として、ポイントまたはその一部が累積して付与されます。その他の質問では、ポイントを獲得するには、求められるすべてのデータポイントを提供する必要があります。後者の場合、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータポイントを提供しなかったりした場合、その質問の得点は0ポイントとなります。原則として、別途明記されていない限り、「コメント」欄はスコアリング対象とはなりません。

表形式で複数の行の回答が求められるようなケースにおいては、いくつかのスコアリングの形式があります。すべての回答欄に記入されていないと得点とならない場合もありますが、最高スコアとなる行の回答のみが採点される場合もあります。

比例配分を用いたスコアリング

回答されたデータの数に比例して得点が与えられる場合もあります。このスコアリングアプローチは、報告される情報量が回答組織によって異なる可能性のある質問で用いられます。比例配分スコアリングでは、表内に提供される情報の量に比例してポイントを付与することで、情報開示されるすべての行について完全な回答を行うことを促進します。ポイントは、表内で記入された個別のセルの数または表内で記入された行の数に比例して付与されます。

スコアリング基準には、いくつかのタイプの比例スコアリング（セルごと、記入した行ごと）があり、以下の表にまとめています。

比例配分を用いたスコアリングの種類	採点基準
表内で記入されたセルの数に比例してポイントを配分するスコアリング。一行のみ、または複数の行がスコアリングされる場合があります。	表示されたセルの数に比例して、記入したセルごとにポイントが付与されます。 この質問ではXポイント中、最大Xポイントを獲得可能です。
開示した行数に対して、記入したセルの数に比例してポイントを配分するスコアリング。すべてのセルが記入されていない行がある場合は、満点がつきません。	開示した行数に比例して、記入したセルごとにポイントが付与されます。部分的に記入した行に満点が付与されることはありません。 この質問ではXポイント中、最大Xポイントを獲得可能です。

<p>開示した行数に対して、すべてのセルが記入されている行ごとにポイントを配分するスコアリング。すべてのセルが記入されていない行は、ポイントがつきません。</p>	<p>開示した行の数に比例して、すべてのセルが記入されている行ごとにポイントが付与されます。部分的に記入した行にはポイントが付与されません。</p> <p>この質問ではXポイント中、最大Xポイントを獲得可能です。</p>
---	--

表2 - CDP スコアリング基準における比例スコアリングに使用されるアプローチ

最も高得点となる回答を1行だけ対象とするスコアリング（ベスト・ロウ・スコアリング）

組織の回答行のうち、1行のデータのみがスコアリング対象となる場合があります。ベスト・ロウ・スコアリングは、回答が不完全な場合や、記載されたすべての内容が採点基準に定められたベストプラクティスを満たしていない場合でも、質問に対して総合的な情報を提供することを可能にします。そのため、ベスト・ロウ・スコアリングは通常、行動、プロセス、または目標の1つの詳細な記述で十分に評価できる質問で使用されます。

ベスト・ロウ・スコアリングのアプローチは、採点基準で「1行が採点されます」と示されます。これらの質問では、すべてのスコアレベルで最高のスコアを獲得できる行に対して得点が付与されます。各スコアレベルは連続的に評価されます。たとえば、SME 情報開示レベルでは満点、SME 認識レベルでは部分点、SME マネジメントレベルの得点がゼロである行は、SME 情報開示レベルで部分点、SME 認識レベルで満点、SME マネジメントレベルでの得点がゼロである行よりも良いスコアとみなされます。

高得点となる回答を複数行採点するスコアリング

回答が記入された行のうち、基準を満たすために複数の行をスコアリング対象として考慮する必要がある場合があります。ベスト・ロウ・スコアリングと同様に、このアプローチにより回答が不完全な場合や、記載されたすべての内容が採点基準に定められたベストプラクティスを満たしていない場合でも、質問に対して総合的な情報を提供することを可能にします。さらに、複数行をスコアリングするアプローチには、必要に応じて、自社の事業活動について個別に情報を報告できる柔軟性も組織に与えられます。そのため、必要な詳細な情報を個別に開示する必要がある場合に適用されます。

高得点となる回答を複数行採点するアプローチが該当する場合は、採点基準において「複数行が採点されます」と示されます。これらの質問では、すべてのスコアレベルで最高のスコアを獲得できる行の組み合わせに対して得点が付与されます。ベスト・ロウ・スコアリングと同様、各スコアレベルは連続的に評価されます（上記参照）。

高得点となる回答を複数行採点するスコアリングは、CDP コーポレート SME 版質問書スコアリング基準では、質問 20.16.1 と質問 20.16.2 の 2 か所に適用されます。この場合、結果としてスコープ 1、スコープ 2、およびスコープ 3 の排出量の目標をどのように報告するかに関する柔軟性が得られません。

最も高得点となる質問だけが対象のスコアリング

CDP コーポレート SME 質問書では、1 か所のみ、2 つの質問のうち 1 つの質問のスコアだけが総合スコアに反映されます。質問 20.16.1 と質問 20.16.2 では、排出量の総量目標（20.16.1）および原単位目標（20.16.2）について回答を求められ、2 つの質問のうち得点が高い採点結果のみが総合スコアに反映されることとなります。これは、スコアリング基準に明示されています。

ベスト・ロウ・スコアリングや高得点となる回答を複数行採点するアプローチと同様、各スコアレベルは連続的に評価されますが、この場合は、最高のスコアを獲得できる質問により決定されます。たとえば、SME 情報開示レベルは満点、SME 認識レベルでは部分点を取得、SME マネジメントレベルの得点がゼロである行は、SME 情報開示レベルで部分点を取得、SME 認識レベルで満点、SME マネジメントレベルで満点を獲得した行よりも良いスコアとみなされます。これらの質問については、組織が CDP ルートまたは SBTi ルートに関わらず、同じ手法が適用されます。

集約された質問書におけるスコアリングアプローチ

組織は現在、1 つの情報開示の中で複数の環境課題に関するデータを提供できるようになりましたが、2026 年においては、中小企業は、気候変動課題分野のみが評価されます。複数の環境課題に関するデータを要求する質問におけるデータの開示および採点方法は、各質問の構造と要求されるデータによって異なります。

環境課題が集約されたモジュール内の多くの質問では、組織が各環境課題について別々の行にデータを開示することが求められます。一部の質問では、組織は定義された列に関連する環境課題を選択して、各環境課題分野に関連するデータ行を指定する必要があります。ここでは、定義された列で「気候変動」が関連するものとして選択された行のみがスコアリング対象となります。組織がいずれかの行の列で「気候変動」を選択しなかった場合、その回答はスコアリングにおいて考慮されず、質問に対して情報を開示しなかったものとしてペナルティを受ける可能性があります。

環境課題が集約されたモジュール内のその他の質問では、提供されたすべてのデータが、情報開示されているすべての環境課題分野について評価されます。これらは、組織の回答がすべての環境課題分野で一貫していると見込まれる質問であり、複数の課題分野に同時に報告することができるため、報告負担が軽減されます。これらの質問では、提供されたすべてのコンテンツが気候変動の環境課題分野の一部として採点されます。組織は、各質問への回答が確実に採点されるように、各質問の具体的な構造に関して概説した「CDP コーポレート SME 版質問書の報告ガイダンス」を確認することをお勧めします。

場合によっては、複数の環境課題分野を集約した質問が組織に提示されることがあります。ただし、各環境課題に対するルートによって、その質問が気候変動にのみ適用されることがあります。これらの質問では、関連するすべての環境課題分野の行またはドロップダウンの選択肢が引き続き表示されますが、ロックされていて、組織の回答にカウントされない場合があります。これは、特定の活動が行われる環境課題の各分野について追加の詳細の提供を求めるフォローアップの質問でよく見られます。採点基準では、このような質問における気候変動への配点方法が、基準内の特定のルート（「該当しないルート」と表示）を使用しているか、スコアレベルのポイントを獲得するために気候変動を報告することを要求する適格要件を使用しているかを明確にしています。

スコアリングルート

質問の採点基準が個別のスコアリングルートに編成される場合があります。これらのルートでは、回答内容およびその回答に関連する後続のデータポイントに応じて、組織がどのようにスコアリングされるかの採点方法を詳細に説明しています。たとえば、組織が質問に対して「はい」または「いいえ」と回答した場合、異なるスコアリングルートが適用される場合があります。環境課題が集約された質問では、質問が特定の環境課題分野に対してのみ回答される場合、スコアリングルートを使用して各環境課題がどのように扱われるかを確認することもできます。

スコアリング基準では、組織が採点基準を満たすために選べるすべてのルートを示すことを目指しています。しかし、スコアリング基準でルートが明示的に定義されていない方法で情報を開示した場合、ポイントを失うことがあります。そのような場合、その質問レベルで獲得可能な最大ポイントに基づき、失う可能性のある最大ポイントが決まります（非開示ルートでの配点を除く）。

最終スコアの計算時に開示内容における大きなギャップが考慮されるように、スコアリング基準では、異なる非公開ルートが設けられています。これらのルートは、主要なデータポイントに対して情報開示を促進する観点から、スコアリング基準内で配点のバランスを取るために利用され、スコアリング基準内において「非開示ルート」と明示されます。

他の質問との照合

全体を通じて、採点基準は関連する他の質問における組織のスコアまたは回答を参照することがあります。たとえば、ある質問でポイントを獲得することが、別の質問でポイントを獲得するための前提条件となる場合があります。このように、他の質問を参照することは、組織の回答の一貫性を確保するためのスコアリングメカニズムとして使用されます。

詳細の記述：「その他、具体的にお答えください（Other, please specify）」

多くの質問では、回答組織が「その他、具体的にお答えください」を選択して詳細を記述できるようになっています。CDPでは、これらの欄に対する自動検査を実行し、回答の有効性を確認します。これらの欄に以下の文字を入力すると、空白セルとして扱われます。

無効な文字				
・	，	：	；	“
！	、	、	。	，
；	-	-	-	-
—	—	—	/	
~	*	—	\	-
?	…	()	[
]	{	}	<	>
±	≤	≥		

スコアに関する免責事項

CDP スコアは、CDP への回答内で開示された情報に基づきます。このスコアは、組織の持続可能性や「グリーンさ」のレベルを総合的に評価する指標でも、環境フットプリントの具体的な指標でもなく、むしろ組織が報告年度に提供する環境課題に関する情報開示レベルを示します。

本年度のスコアがどのように付与されるかを回答組織に示すために CDP2026 スコアリング基準を発表しました。CDP は、最新のリスク管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、スコア結果に基づいて、スコアリング期間前および期間中に質問の基準やウェイトを調整する権利を留保します。

フィードバックとお問い合わせ

スコアのフィードバックを受けたい場合、および CDP のスコアリング基準に関する質問やご提案がある場合、並びに一般的な質問をされたい場合には、[CDP ヘルプセンター](#)でナレッジ記事をご確認いただくか、マイサポートよりお問い合わせください。

付録 I – スコアのプライバシーポリシー

SME 質問書における環境課題

CDP の SME 質問書に回答するすべての組織は、**気候変動**に回答することを求められます。それに加えて、以下の1つまたは複数の場合に、**フォレストおよび/または水セキュリティ**に関する質問に回答を求められます。

- **キャピタルマーケット署名機関から要請を受けている場合**（気候変動、フォレスト、および/または水セキュリティ）
- **CDP サプライチェーンメンバー、バンクプログラム、またはその他の回答要請機関から要請を受けている場合**（気候変動、フォレスト、および/または水セキュリティ）
- **フォレストおよび/または水セキュリティに関する情報開示にオプトインしている場合**

回答要請の承諾または辞退とスコアリングとの関連性

資格基準を満たすすべての組織は、気候変動について回答するとスコアリング対象になります。

スコアの公開・非公開は、以下の条件によって決まります。

- **キャピタルマーケット署名機関から要請を受けている場合**：スコアは公開されます。情報開示を行っても、要請に応じず情報開示をしなくても、回答状況は CDP ウェブサイトに掲載される可能性があります。
- **回答要請機関（CDP サプライチェーンメンバーなど）から要請を受けている場合**：スコアは**非公開**のままとなりますが、SME A スコアを取得した場合はその限りではありません。

付録 II - 利益相反方針

回答のスコアリングについての利益相反に関する方針

CDP が提供する情報の独立性、品質、完全性を維持することは、CDP のミッションにとって不可欠です。したがって、CDP では、スコアリングプロセスの客観性を脅かす可能性のある潜在的な利益相反のリスクを軽減するための包括的な対策を採用しています。

組織全体の管理

すべての CDP スタッフは、雇用条件として CDP の利益相反方針を遵守することが求められており、意思決定プロセスに何らかのレベルで関与するスタッフは毎年利益相反の申告を提出し、その後この申告が最新の情報を反映していることを確認する必要があります。このプロセスを通じて特定された潜在的な矛盾が効果的に管理され、CDP が提供するスコアやより広範なデータセットの独立性に脅威を与えないよう、適切な緩和制御が実施されています。スコアの最終確認および承認に関与するスコアリング担当者に、回答組織と潜在的なつながりまたは利害関係がある場合、その担当者は当該組織のスコアリング担当から外されます。

スコアリングプロセスを担当するスコアリングチームは、CDP のコマーシャルチームから完全に独立しており、コマーシャルチームのリーダーに報告することではなく、CDP のデータを利用する、または CDP に情報を開示する企業との関係に直接関与したり、それらを把握したりすることは一切ありません。

CDP のスタッフまたは CDP の取締役会メンバーが、スコアリング結果に影響を与えようとしたり、スコアの計算においてスコアリング基準の適用に一貫性と公正性が欠ける行為を奨励しようとしたりした場合は、重大な不正行為とみなされ、即時解雇の対象となります。

スコアリング基準の作成

CDP のスコアリングおよびディスクロージャーコンテンツチームは、CDP のソートリーダーシップチームからの意見を反映させながら、CDP のスコアリング基準を作成しています。この基準は、確かな環境科学に基づいており、関連する環境基準やフレームワーク、そして意思決定に欠かせない高品質な環境情報の活用を促進するという CDP のミッションと整合しています。関連するソートリーダーシップの専門家による精査を含む広範な審査プロセスを経て、すべての基準は一般に公開され、開示情報のスコアリングに使用される前に、スコアリング責任者の承認を受けます。スコアリング責任者は、基準が公表される前に必要なすべてのレビューが完了し、承認されていることを確認する最終的な責任を負います。

スコアリングプロセス

CDP のスコアリングチームは、スコアリングプロセス全体を担当しており、スコアリングパートナーのトレーニングやスコア公表前の検証作業などを行っています。スコアリングプロセスの公平性と信頼性を確保する最終的な責任は、スコアリングチームの責任者が負います。スコアリングチームは、必要に応じて CDP の他のチームに特定の支援（例：質問書の回答に含まれる補足書類の翻訳など）を依頼することがありますが、スコアリングの判断には他のチームや個人は一切関与しません。公開されているスコアリング基準を開示情報に一貫性を保ちかつ客観的に適用することのみに基づいてスコアリングが行われます。CDP のスコアリングシステムおよび未公表のスコアにアクセスできるのは、スコアリング担当のスタッフのみで、彼らは CDP に提出された開示内容をいかなる方法でも変更することはできません。

すべてのスコアが、組織によって提出された開示情報に対して、スコアリング基準を客観的かつ偏りなく適用した結果に基づくものであることを保証するために、強固な品質保証プロセスが設けられています。すべてのスコアは、回答組織および一般への公開に先立ち、スコアリングチームの責任者に

よる最終承認を必要とします。また、すべてのスコアの整合性を確保する最終的な責任は、スコアリングガバナンス委員会にあります。

CDPは「スコアリングパートナー」となる外部組織と契約します。スコアリングパートナーは受け取った開示情報をCDPのスコアリング基準に基づいて評価するプロセスをサポートしています。スコアリングパートナーは、CDPのトレーニングプログラムの完了後、CDPのスコアリング基準の適用における一貫性と客観性を確保するための適切な内部品質保証プロセスが整備されていることが確認されることにより選ばれます。スコアリングパートナーが行ったスコアリングは、公開される前にCDPの内部スコアリングチームに提出され、最終的な品質チェックと承認プロセスを受けます。

スコアリングパートナーは、スコアリングを開始する前に、利益相反の申告書をCDPに提出することが求められます。この申告書では、スコアリングを依頼された提案されたサンプルに含まれる組織が自社の顧客や競合他社があるか、または自社（またはその上級管理職）と潜在的な利益相反を生じさせる可能性のある関係性にあるかどうかを開示する必要があります。提案されたサンプル内の組織のいずれかがそのような利益相反に該当する場合、その組織はスコアリングパートナーによってスコアリングされる開示サンプルから除外され、こうした組織はすべてCDPのスコアリングチームが対応します。

上記で述べた品質保証の管理に加えて、CDPとスコアリングパートナーの間で締結された契約は、スコアリング基準の完全に公正かつ客観的な適用以外のいかなる行為も明示的に禁止しており、これらのコミットメントを遵守しなかった場合は、提供されたサービスに対する支払いを行わず、直ちに契約を解除することに加え、法的措置を講じる事由となります。